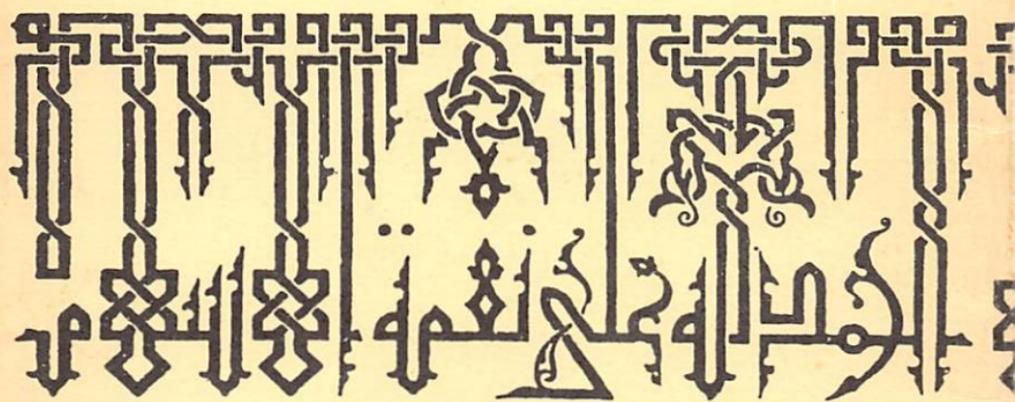


イスラームに生まれて

التنشئة الإسلامية



宗教法人

イスラミックセンター・ジャパン

ISLAMIC CENTER, JAPAN

イスラームに生まれて

التنشئة الإسلامية



宗教法人
イスラミックセンター・ジャパン
ISLAMIC CENTER, JAPAN

ムスリム（イスラーム教徒）として生まれた私たちは、「ビスミッラーヒッラフマーニッ
「ラヒーム」（仁愛慈悲のアッラーのみ名によって）という句で始まるお祈りを、物心ついた頃
の思い出の一つとして、心に残しています。

母の膝の上で、この言葉の一句、一句を習ったことも覚えていません。父がそれを口ずさんでい
るの聞き、そして、父はその言葉は、高貴なるクルアーンという聖典の序章であると私たちに
語ってくれました。

その言葉は、今も私たちの中に生き、人生の大事な局面において、有意義な助力となっている
のです。

ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム ①

アルハムドゥリッラーヒラッビールアーラミーン ②

アッラフマーニッラヒーム ③

マーリキヤウミッディーン ④

イイヤーカーナアブドゥワイイヤーカーナスタイーン ⑤

イフディナツ ■ スイラータ ■ ル ■ ムスタキーム ⑥
スイラータツ ■ ラズイーナ アンアムタ アライヒム ガイリ ■ ル ■ マグドゥービ アライヒ
ム ワラッ ■ ダーッリーン ⑦

△ 意 味 ▽

慈悲あまねく慈悲深きアッラーの御名において。①

万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ、②

慈悲あまねく慈愛深き御方、③

最後の審きの日の主宰者に。④

わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。⑤

わたしたちを正しい道に導きたまえ、⑥

あなたが御恵みま下された人々の道に、あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人々の道で
はなく。⑦

この祈りは今なお、常に私たちとともにあります。私たちが生まれて、まだ何もわからないほ

ど幼い頃、耳元でささやかれた言葉に次のようなものもありました。

アッラーフ アクバル (四回唱える) ①

アシュハド アン ラー イラーハ イッラッラー (二回) ②

アシュハド アンナ ムハンマダン ラスールッラー (二回) ③

ハイヤー アラッサーラー (二回) ④

ハイヤー アラールッファラー (二回) ⑤

アッラーフ アクバル (二回) ⑥

ラー イラーハ イッラッラー

△意 味▽

アッラーは偉大である ①

アッラーの他に神はないことを証言する ②

ムハンマドはアッラーのみ使いであることを証言する ③

礼拝のために来たれ ④

成功のために来たれ ⑤

アッラーは偉大である ⑥

アッラーの他に神はない ⑦

私たちは、この響きを数えきれないほど、何度も何度も聞いています。モスク（イスラームの礼拝堂）の近くに住んでいて、日に五回、両親に連れていってもらった礼拝堂では、イマーム、つまりイスラームの指導者が両手を挙げて、声高らかにとなえる「ビスマッラーヒッラフマニッラヒーム（仁愛慈悲のアッラーのみ名によって）」という言葉聞いた。私たちは、イマームの言葉に続いて、くちびるを動かし、心を震わせたものです。

イマームがそこにいない時、つまり一緒にいるムスリム達の中に、そのような指導者がいない時は、皆の中で最も学識のある年長者が、礼拝を主導します。なぜならばイスラームは民主的で、信仰者達の間から指導者を選ぶのです。イスラームは僧侶や牧師などプロフェッショナルな宣教師はおりません。能力のある者を育てるのは、敬虔な信仰心によってのみ可能となります。

このような幼少時代の記憶によって、私たちはより広大な世界、つまり絶対的真理の世界に触れることが出来ました。それは私たちにすべての人間が心得るべきことや、敬わねばならないことを教えてくれました。子供心に何度も、父や母の言葉づかいについて考えました。そして、いくらか神秘的でより高度なもの、つまり感じることはできるが、すべてを理解することができない高尚なもの、自然の美しさ、生きることの喜び、そして両親、兄弟姉妹、親類、友人の愛に、かれらの言葉を結びつけました。しかし、それらは最後には、私たちの気持ちを礼拝の場、すなわちモスクに立ち戻らせるのでした。そして、それらにより繰り返されたアッラーの名と、その特質が心にいつも浮かんでくるのでした。

集団礼拝の時の雰囲気は、世の中の他のできごととはどこか違っていました。両親もその時はいつもと違っていたのです。かれらは心を正し、身体を淨めて準備をしました。礼拝所には金色の丸屋根や、高くそびえ立つ尖塔や、人々が礼拝し冥想する涼しい丸天井の部屋や廊下があり、それらの美しさによって、いつもとは違う雰囲気が感ぜられたものです。絨毯の柔らかな感触、その上にすわっただけで私たちは、落付いた気分になったものでした。

カサブランカ、アルジェ、ダマスカス、カイロ、イスタンブール、イスファハン、ラホール、ジャカルタなどイスラーム教徒が、かつては支配し、今もそこに数多く住む街々の中のモスクの美しさは筆舌に尽すことは出来ません。メッカのカアバ神殿の聖域において、特別な方法で神にまみえることができるように、それらのモスクで、アッラーにまみえることができるという話を聞いたことがあります。アッラーは天国とこの世を作った唯一の神であり、モスクはかれに感謝の礼拝を捧げる場所なのです。そこで人々は神にまみえることができるたいせつな場所ということから、モスクは美しく清くあるべきであり、安息できる所であるべきなのです。

年若い頃、すでに私たちはモスクを愛することを知り、そこに入る時はいつでも身を清めて敬虔な気持ちになります。

モスクでは、靴は脱いで入口に置くか、または手に持ち、自分の側の通路に置いておくように教えられた。それは礼拝の時に、ひたいを床につけるため、そこは土足で入ることを許されず常に清潔に保っておかねばならないのです。我身をしっかりと清潔にしていなければ、その礼拝はアッラーに受入れられず、またモスクに入ることすらできないのです。心と身体を清めてこそアッラーと交信することも、可能になるのです。また、礼拝の準備が整えば、不潔なこと、不誠実

な考えや行いを慎しみ、ひたすらアッラーに祈るのがモスクなのです。

あなたに啓示された啓典を説誦し、礼拝の務めを守れ。

本当に礼拝は、(人を)醜行と悪事から遠ざける。(第二十九章 第四五節)

とクルアーンで述べられています。もし、モスクのそばまで来て、礼拝の準備ができていなかったら、入口のわきの泉へ行って、礼拝のための準備をします。

それから、あなたは大礼拝堂に入って、メッカの方向を示す壁のくぼみ(ミヒラブ)に正しく向って立ち、礼拝をすればよいのです。金曜日正午すぎの共同礼拝には主導者イマームが来て、壇上(ミンバル)で説教(ホトバ)をするのを待ちます。そして、その後集団の礼拝が終ると、知人や友人と握手を交し、すべての人々は満ちたりた気持ちになって、モスクを後にします。

アッラーは、そのような人々のことを「交易や商品に感わされることなく、アッラーを念じ、礼拝の務めを守り、定めの喜捨(ザカート)をなすことに怠りない人間たち」であるとクルアーン第二四章光り章第三七節で記されています。

イスラーム暦第九月（ラマダーン月）には、人々は断食をするが、多くのムスリムたちがそうしているように、私たちもモスクの静かな廊下で、しばしの休息をとることがあります。モスクはラマダーン月の間、満員になります。絨毯の上にひざまづいたり、座ったりしている商人や、労働者、学者、役人たちが溢れます。壁の美しい模様をやりながら、私たちの心は高貴な聖クルアーンの一節一節を探し求めます。そして、アッラーを偲びジクル（想念）します。それらは私たちの両親が、聖典から教えてくれたものと同じ言葉であり、今私たちに深い安らぎを与えてくれます。子供時代から、このようにイスラームは私たちに切っても切れない影響を与えてきたのです。

しかし、いま大人に成長した私たちは、イスラームが単に道徳を教える宗教でなく、完全な日常生活の指針をも説いていることを知りました。そしてイスラームは私たちを助け、真理をもって人生に直面させる大きな役目を果たしているのです。

私たちの友人の中で最も立派な人とは、金曜日の集団礼拝のためモスクへ行き、アッラーにまみえる人々であります。私たちは日に五回の礼拝や、その他の行いの中に、活力の源泉を見いだしたのです。そして礼拝や、諸々の行いは、以前にも増して意味あるものとなりました。定められた時に礼拝できなかった場合は、できるだけ早い機会に代りの礼拝を行うよう努めます。たま

たまモスクから遠く離れた所に住んでいて、モスクで日々の礼拝ができないときは、家か仕事場のどこか清潔な場所を選んで礼拝をささげます。

もし、仕事や旅行で世界各地を訪ねるなら、行く先々のモスクで、礼拝の方角を示すモスクの壁のくぼみ（ミヒラブ）が、どのように異なっているか見られるでしょう。例えばインドやパキスタンでは、それは西南の方向にあり、北アフリカや欧州では大体東方に向い、シリア、イラン、トルコなどでは南方に向いています。このように地球上のどこにいても、日に五回メッカの方角をむいて礼拝することによって、すべてのイスラーム教徒は同胞心と団結心を培うことが出来るのです。

結婚の適令に達すると、私たちはより大きな責任感を感じました。人生の他の厳肅な一時と同じ様に、私たちは家族と相談し、人生の伴侶を持ちたいと願ひ出ます。私たちの家族も、彼女の家族もイスラームの教えを実践しているならば、ムスリムである私たちの妻も、私たちの母が私たちを育てたように、妻は子供を育て、神を畏れ、自らそう心がけることを教えるでしょう。結婚によって、私たちは家を持ち、交際や交遊の必要性を感じ、妻や子や社会に対する責任を遂行する義務を担います。結婚も一種の契約であります。つまりアッラーとその世界の前に於いて、

そして自分自身の中で、尊重されるべき約束事なのであります。

ムスリム（イスラーム教徒）でない人々が、イスラームの結婚について批判することがあります。それはひとつにはイスラームを理解していないからでもあります。例えば彼らはムスリムはいつも四人の妻を持てるものと考え、討論の場でのムスリムに対する最初の質問はこのことについてのケースが多いのです。女友達を身近におき、プロステイチュートに通うという形の隠された一夫多婦制は、西洋の考え方であるかもしれないが、イスラームは、未婚の母や未婚の父というような不法な関係に賛成出来ないのです。『これは人生の責任を負う』ということからの逃避なのです。ムスリムは結婚を、神聖で重大な義務と考え、子供達のすべてを認め、かれらに対して、その養育、教育や、道徳的しつけや、人生への手引きに対して、責任を遂行します。このようにムスリムは、結婚を厳粛なものとして尊重します。なぜなら、結婚は社会の基本的構成単位だからなのです。

同じように局外者は、イスラームのいう天国について興味を持つようです。そして、そこに女性がいって欲しいなどと言いつい出しかねないのです。しかしながら、天国には河が流れていて、善良

な男女が、永遠に休息することができ、緑豊かな場所であるとムスリムたちに考えられています。

(善行を積んだ魂に言われるであろう。) おお、安心、大倍だいごしている魂よ
あなたの主に返れ、歎喜し御満悦ごまんえつにあずかって。

あなたは、わがしもべの中うちに入れ。

あなたは、わが楽園に入れ。

(第八章 第二七節—三〇節)

そこは、この世の人生が終る時、われわれが行きたいと望む場所であり、そこではすべての人が神の公正な報酬を受ける。われわれ自身慈悲深くあるべきであるように、神は慈悲深い。神はわれわれに不可能なことを要求しない。アッラーは誰にも、その能力以上のものを負わせられない。(第二章 第二八六節)

善いことを行う者は、

それと同じようなものを十倍にして頂いたける。

だが悪いことを行う者には、

それと等しい応報だけで、

かれらは不当に扱われることはないであらう。

(第六章 第一六〇節)

「ムスリムは宿命論者で何事も神のせいにしたがる」と非難する人があります。たしかに、われわれはアッラーの天命を信じています。しかし、すべてを神まかせて、自らの努力を怠ることは許されません。かつて預言者は「ラクダは先づつないでから、その後をアッラーにおまかせなさい」と戒められたと伝えられています。アッラーの御加護に関して誇張した見解を持つ人に対する警告だったのです。すなわち『人事をつくして天命を待つ』こそイスラームの精神なのです。又、われわれは敵に対しても親切であるように教えられました。聖典クルアーンに述べられている「善行によつて、悪を撃退せよ」(第二三章 第九六節)、これは悪に対し悪をもって報復することなく、善いことを行なつて悪を追い払え、ということでもあります。

またジハード(聖戦)に従軍することも教えられています。ジハードとは、アッラーの道において努力し、戦うことです。それはアッラーのことばを至高のものとするためになされる、精神

的及び肉体的な努力であり、悪への誘惑との戦いから、アッラーのための戦いに従事することまで、広範囲にわたる行動を指しています。

アッラーは聖典クルアーンを通して、われわれにこのことを思い起こさせます。

それはあなたがたがアッラーとその使徒を信じ、

あなたがたの財産と生命をもって、

アッラーの道に奮闘努力することである。

もし分るならば、

それはあなたがたのために最も善い。

(第六章 第一一節)

われわれはまた、忍耐を教えられた。

かれらは、非常に厳かにアッラーにかけて誓い、

「もし印がかれらに下るならば、必ずそれを信仰するのに。」と言う。

(第六章 第一〇九節)

^{アッラー}われわれの高貴の書クルアーンは、預言者ムハンマドが、人々の品行について悩んでいた時に、神から啓示された文書なのです。それによって、かれは人々を偶像崇拜から遠ざけ、唯一の神にのみ、かれらの信仰をささげるよう教えたのでした。

言ってやるがいい。

「本当に主は、わたしを正しい道、真実の教え、純正なイブラーヒームの信仰に導かれる。かれは多神教徒の仲間ではなかった。」

(第六章 第一六一節)

その本は生き生きとした文章で満ちています。それは広大な範囲に及ぶ真理を含んでいます。あなたは、暗黒の時代から、勝利と歓喜の日々を得たムハンマドの精神的、政治的闘争を見ることが出来ます。これは人生の大切な瞬間に、心を充実させ、また困難を乗り越える力を与えます。そして、そのような時には次のように祈ります。

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1 言つてやるがいい。「御加護ごかごを求め願う、人間の主、
- 2 人間の王、
- 3 人間の神に。
- 4 こっそりと忍び込み、囁く者の悪から。
- 5 それは人間の胸に囁ささきかける、
- 6 ジン（幽精）であらうと、人間であらうと。」

（第一一四章 第一―六節）

人生は時として困難なものであるが、また壮麗に美しくもあるのです。「悪」を人間の遭遇する「状況の一部」と考えれば、人生は必ずしも耐えられぬものではなく、「善」や美德はその意味を失うことなく、幸福は達成可能なものとなります。男も女も、困難に打ち勝ち喜びをもって人生の成功にむかうことができるのです。ちょうど旅人が寒い夜、暖い灯のある宿にたどり着くように、また、水夫が荒々しい嵐の海から、おだやかな海へと運ばれるように。われわれは生きていて、幸運であったことを知り、心配や不安から解放されるのです。そして勇気を得て、ともに笑い、善い行いを実践するのです。人生を通して、われわれの道案内をしてくれるアッラーの

存在を感じ取ることが出来るのです。聖クルアーンには次のように述べられています。

アッラー、かれの外ほかに神はなく、永生に自存おかたされる御方。

仮眠も熟睡も、かれをとらえることは出来ない。

天にあり地にある凡まづてのものは、かれの有ものである。

かれの許ゆるしなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。

かれは（人びとの）、以前のことも以後のことも知っておられる。

かれの御意かたに適あったことの外ほか、かれらはかれの御知識みみに就ついて、何も会得するところはないのである。

かれの玉座は、凡まづての天と地を覆おほって広ひろがり、この二つを守って、疲れも覚おぼえられない。かれは至高にして至大であられる。

（第二章 第二五五節）

又、他の箇所では偉大なる尊嚴について次のように述べられています。

仮令^{たとえ}え地上^{すべ}の凡^{すべ}ての木がベンであつて、

また海^{うみ}（が墨^{すみ}で）、その外^{ほか}に七つの海をそれに差^さし添^そえても、

アッラーの御言葉^{おことば}は（書き）尽くすことは出来ない。

本当にアッラーは、偉力ならびなく英明であられる。

（第三章 第二七節）

アラビア語の *Din* という語は、普通宗教を意味するものとされているが、宗教という言葉は *Din* が含むすべての意味を表わしてはいません。 *Din* はいろいろな角度から人生を見、そのあらゆる局面に対応するための態度と方法なのです。このように、 *Din* には立体的な深みと力があります。

イスラームとは人生に、「サラーム」つまり「平和」をもたらすものであり、ムスリムとは文字通り、アッラーの平和を達成する人々のことであります。イスラームによって、われわれは深く精神的な人間となり、敬虔な気持で宇宙の未知なるものを知り、さまざまな人々と出合うことを学びます。そして感謝と堅忍な心で、われわれの運命を受け入れ、宇宙のすべてのことを支配する唯一の神アッラーを信じます。聖クルアーンにはアッラーについて次のように述べられています。

ます。

仁愛慈悲のアッラーのみ名によって

言え、かれはアッラー、唯一者であられる。

アッラーは、自存者であられ、

かれは産みたまわず、また産れたまわぬ、

かれに比べ得る、何ものもない。

さらに、世界のほとんど特にヨーロッパにおいては、中世の暗黒時代、つまり混沌が社会を支配していた頃、イスラーム世界は素晴らしい文明を生み出していました。当時イスラームは、文化を創造し、また他の諸文化を統合する力を有し、東は中国の国境から西はピレネー山脈に至るまでの広大な世界の交流を成し遂げました。

そして、今私たちはイスラームの偉大な信仰を誇り、ムスリムとしてその文化をも誇りに思っています。私たちは死後の世界を信じ、未来に大きな希望を持っています。私たちはムスリムであることに大きな喜びを覚えます。それはアッラーが、至高最大の存在であられるからです。

アッラーが望むなら、私たちは、この二十世紀末の混沌とした世界に、再び強力な精神的支柱と

して、光を投げかけるでしょう。

◆イスラーム入門シリーズ

- 「サラート」(礼拝) ①
 - 「サウム」(断食) ②
 - 「ザカート」(喜捨) ③
 - 「ハッジ」(巡礼) ④
 - 「イスラームの生き方」 ⑤
 - 「ムハンマド」 ⑥
 - 「イスラームの家族生活」 ⑦
 - 「イスラームの政治理論」 ⑧
 - 「イスラームの休日と儀式」 ⑨
- ◆「アッサラーム」バックナンバー
- 一〜八、十〜十四号は絶版となっています。
 - 九号 「メッカ大巡礼——ハッジ」二〇〇〇円
 - 十五号 「イスラーム未来への挑戦」二〇〇〇円
 - 十六号 「イスラームと人権問題」二〇〇〇円
 - 十七号 「イスラーム復興の根底を探る」二〇〇〇円
 - 十八号 「エルサレム開放に向けて」二〇〇〇円
 - 十九号 「イエルサレムその現代的視点」三八〇〇円
 - 二十号 「信教の自由」三八〇〇円
 - 二十一号 「サハーバの時代」三八〇〇円
 - 二十二号 「イスラーム経済Ⅰ」三八〇〇円
 - 二十三号 「イスラーム経済Ⅱ」三八〇〇円
 - 二十四号 「クルアーン(コーラン)」三八〇〇円
 - 二十五号 「近代のイスラーム復興運動」三八〇〇円

- 二十六号 「イスラーム世界のさまざまな相貌」三八〇〇円
- 二十七号〜三十三号 五〇〇〇円
- 三十四号〜無料

◆その他の刊行物

- 「イスラームの教育哲学」
- 「イスラームと社会的責任」
- 「聖クルアーンとハディース」
- 「ジハード 神の道のために」
- 「預言者としてのムハンマド」
- 「神の預言者達」
- 「イスラームの子供の本」
- 「イスラームとはなにか」
- 「ヒジュラ・カレンダー」
- 「サハーバ物語」一、八〇〇〇円
- 「40のハディース」六〇〇〇円
- 「コーランとハディースの根本教義」巻Ⅰ・Ⅱ 各四八〇〇円
- 「アッサラーム・英文ダイジェスト」五〇〇〇円
- 「イスラーム概説」一、八〇〇〇円
- 「キブラコンパス」五〇〇〇円
- 「コラーンテープ」五〇〇〇円
- 「サラート指導テープ」五〇〇〇円

※御希望のものがありませんら、当センターまで御申し込み下さい。
なお価格表示のないものは無料で配布致します。

イスラームについての諸出版物を御希望の方は、左記の諸団体へ御連絡下さい。

東京

○宗)日本ムスリム協会 03(370)3476

東京都渋谷区代々木1の24の4 〒151

○在インドネシアムスリム協会

東京都品川区東五反田2の9 インドネシア大使館気付

03(441)4201 内線411

○日本イスラーム友好連盟(ムスタファ岡田) 03(779)0504

東京都品川区西五反田2の31の5 第五セブンスター

マンション802号

○イスラーム文化研究所 03(467)2036

東京都渋谷区宮ヶ谷二の13の22 森本方

○アラビック・イスラミック・インスティテュート

東京都渋谷区代々木4の27の25 フジ20ビル内 03(370)5995(代)

京都

○関西ムスリム学生協会 075(641)0292

京都市伏見区深草大門町26 新家方 〒612

○(社)日本イスラーム友愛協会 スレイマン築山

京都市伏見区深草西浦町4の36 築山設計事務所 〒612

大阪

○宗)日本回教寺院(ジャバン・イスラミック・モスク)

イスラミック・スタディ・ソサエティ

大阪市北区西天満4の6の16 三和ビル3F 〒530

神戸

○宗)神戸イスラーム モスク 078(231)6060

神戸市中央区中山手通り2の25の14 F・デブス 〒650

奈良

○奈良イスラームセンター(中村潤次郎)

奈良市三條栄町136の3の1の414 〒630

0742(34)6987

徳島

○徳島イスラーム教育センター(ハリッド木場)

徳島ハリッド学院 〒770 0886(52)7595

徳島市西船場町1丁目13 新居ビル4F

仙台

○イスラーム文化センター(ムハンマド佐藤)

仙台中央郵便局私書箱133 0222(34)5538

金沢

○日本イスラーム青年同盟(イスハック泉屋)

金沢市泉本町1の7の2 泉屋書店 〒921

0762(44)7019

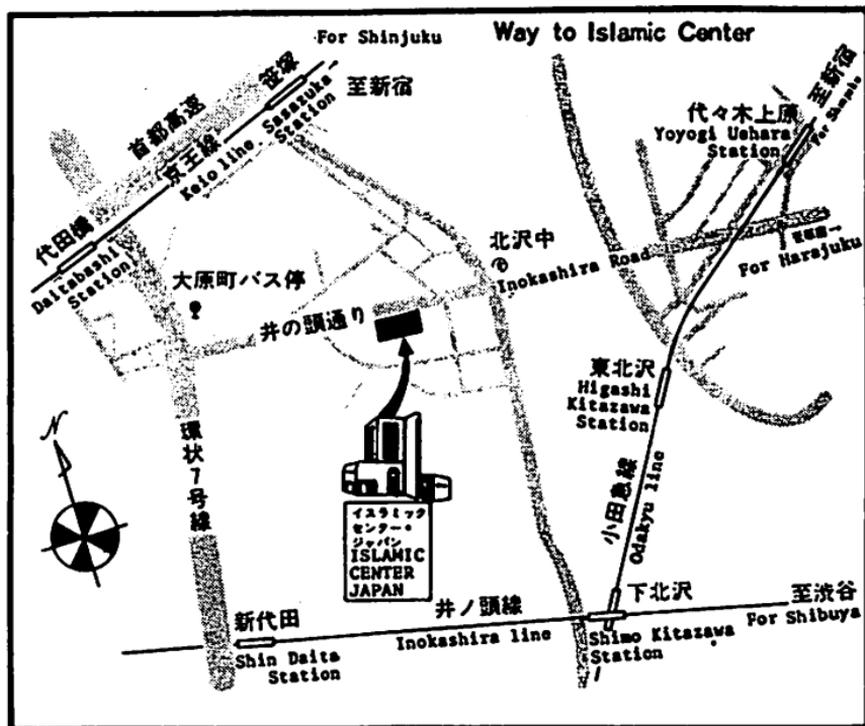
北海道

○宗)北海道イスラーム文化センター(アブドゥルラー新井)

苫小牧市矢代町2丁目5の11 0144(73)3520

○宗)宗教法人 (社)社団法人

0144(73)3520



1-16-11, Ohara, Setagaya-ku, Tokyo
 〒156 東京都世田谷区大原1-16-11 TEL.(03)460-6169/0

聖クルアーン朗唱テープやイスラームに関する講演、討論会のテープ、その他の諸文献、刊行物並びにイスラーム圏諸国に関するフィルムについては、当センターへお問い合わせ下さい。当センターでは、相互理解を深めるため、皆様の御利用をお待ちしております。

1987年2月10日発行 第2版3000部

発行所 宗教 イスラミックセンター・ジャパン
 法人
 所在地 東京都世田谷区大原1-16-11
 〒156
 TEL (03)460-6169
 印刷所 三晃商事

هدية من :

شركة الدهلوي وكلاء ناشيونال
مكة المكرمة - المملكة العربية السعودية

謹呈

ジャミール・アル・ダハラウィーカンパニー
メッカ、 サウジアラビア

松下電器産業（株）サウジアラビア国代理店

Presented By:

AL-DAHLAWI CO., Makkah AL Mukkarama,
Agent of: Matsushita Saudi Arabia

